標茶高校
きっと会える君のイイ顔!!

標茶高校の「今」

日本一の敷地面積を誇る標茶高校は、普通科と専門学科を総合した「総合学科」を備え、独自の教育課程に取り組み、魅力的な人材を輩出し続けています。「標茶高校?もちろん知ってる!」という方にも「実はよく知らない…」という方にも、標茶高校の「今」をお届けします。

「総合学科」で伸びる力

授業を行うのは教室の中だけではありません。広大な高校敷地内、町内、町外、道外から時に海外まで、さまざまな場所で多様な人と関わり、自分で考え、伝える機会がたくさんあります。主体性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見・解決、協調性など、社会で求められる力を育てるのが標茶高校の「総合学科」です。

進路のニーズに応える教育

標茶高校では3年間の中で進路を考える時間をしっかり確保し、生徒一人一人が希望する進路の実現に向けてサポートしています。就職率は100%を継続、大学、専門学校の推薦枠が充実しており、定数の半数が自己推薦で入学できることも魅力の一つです。

総合学科での経験の中で育まれた力は、どのような環境でも必ず強みになります。

「総合学科」で学ぶ。

特徴①

自分で選ぶ！
自分だけの時間割

標茶高校の授業は国語や数学などの必修科目と、自分で授業を選ぶ総合選択科目があります。

さらに総合科目は「人」「自然」「食」３系列の生き方を学ぶ実習科目と、大学進学のための学力を培う自由選択科目に分かれ、興味・関心や進路目標に応じて、系列の枠にとらわれず自由に授業を選択できます。

どうやって選べばいいかわからない！という時には先生や先輩方がしっかりサポートしてくれます。

特徴②

「いのち」を巡る
「人」「自然」「食」３つの系列

人　文化理解系列　ことばと生活

外国文化やアイヌ文化、福祉、食などを学習し、多様な文化や社会状況への理解を深め、他者を理解する態度や能力を身につけます。

自然　地域環境系列　ガイドとみどり

地域の環境素材を生かした体験活動で北海道の自然環境や食の安心・安全などについて理解を深め、実践力・表現力を身につけます。

食　酪農・食品系列　乳牛と食品

地域の基幹産業である酪農、北海道や近隣の食材を生かした食品加工･開発などの学習から農業経営、農業の知識･技術を身につけます。

特徴③

授業・行事・探究の三位一体

授業を受ける　▶▶　行事に参加する　▶▶　探究する

授業での学びを行事に生かし、行事で得た経験を元に、興味のあることを探究します。
たとえば「食品製造」の授業で加工品を製造、各種販売会（行事）で販売、アンケートなどを元に新商品の開発をします。

【系列行事の一部】●文化理解系列…外国クルーズ船ボランティア、標茶高校フォトコンテスト、英語弁論大会
●地域環境系列…釧路湿原クリーンデー、インタープリターズキャンプ、タンチョウガイド
●酪農・食品系列…標茶町うまいもん発見市場、共進会、校内販売会

「総合学科」で体験する。

標茶高校の特色ある授業や行事の様子は、標茶高校ホームページ内で閲覧できるブログ、SNS公式アカウントなどで紹介しています。

おかげさまで 5,500フォロワー突破！！

標茶高校Instagram更新中!!

高校生たちが日々標茶高校や町の魅力を発信しています！ぜひフォローお願いします♪

◀フォローはこちらから！

課題研究（ゼミ活動）

◀観光列車「くしろ湿原ノロッコ号」内で標茶町の歴史と魅力をガイド（創生ゼミ）

▶湿原に棲む特定外来生物・ウチダザリガニで作るザリガニ煎餅を考案（環境ゼミ）

◀地元食材と町の課題であるエゾシカ肉を活用した鹿バーガーを開発（食品ゼミ）

文化理解系列

地域環境系列

酪農・食品系列

校長先生に聞いた

「今！保護者が知らないと損をする急激に変化している高校選択」

今、社会に求められる能力は「学力の高さ」ではない

近年、グローバル経済の世界標準化の波に日本も否応なく飲み込まれていることは皆さんも周知のことと思います。さらに、国内に目を向けてみると少子化による人口減少に伴う日本国内市場の縮小傾向を受け、今、多くの日本企業が今後の経済成長が見込める海外で事業を拡大していくグローバル展開を目指しています。逆に、海外企業が日本へ進出している数も増加傾向が続いています。私達大人が経験してきた教育界に長く浸透していた「勉強に励む」→「良い高校へ行く」→「良い大学へ行く」→「良い会社に就職する」→「年々賃金が上昇する」→「一つの会社で定年を迎える」常識は既に「崩壊」しているのです。このような状況下、教育にはグローバル社会に対応する人材の育成が求められています。ここで文部科学省が求めている育む能力について見てみましょう。

Ⅰ：　語学力・コミュニケーション能力
Ⅱ：　主体性・積極性、協調性・柔軟性、責任感・使命感
Ⅲ：　異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
他：　幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー
※ 特に、「課題解決力」と「協働性」を重視。

文部科学省「グローバル人材育成推進会議」中間まとめ　より

そして、日本企業の経営者はどのような人材を求めているのか。経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」では「コミュニケーション能力」が第1位「主体性」が第2位に挙げられてきました。試験の点数だけではなく、自分で考え、周囲と協働しながら行動できる人材を求める傾向が、明確に示されているのです。さらに加えて「学力や偏差値偏重主義」に対するグローバル社会における弊害や課題も示されました。

教育事情を語る後藤校長

「どこの高校で学ぶか」ではなく「高校で何を学んだか」

このことを受けて、2014年に高等教育における中央教育審議会答申が出され「知識量だけでは測れない力」を評価する必要性が大学入試に大きく影響を与えたのです。大学入学者選抜においても、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や主体性などを多面的・総合的に評価することが打ち出され、2021年度入試からは「学力選抜」に加えて「総合型選抜」「学校推薦型選抜」を公的に認可しました。あわせて、小論文や面接、教科・科目のテスト、大学入学共通テストなどによる学力把握のいずれかを必ず行うことが制度化された結果、現在「どこの高校へ進学した」のではなく「高校で何を学び、何を経験し、上記の能力がどれくらい成長したのか？」が大学入学者選抜の合否判定基準として大きなウェイトを占めているのです。

現在の総合型選抜は「ラクをして入学できる特別な試験」ではなく、学力とともに思考力や主体性などを総合的に評価する入試だという理解が必要であり、私も含めた保護者の「常識」をアップデートする必要があります。

希望の進路への近道を見逃さない高校選択を

ここまで読んでも「うちの子には関係ない」という感覚をお持ちの保護者の方もいらっしゃるかもしれません。しかし、保護者が古い知識のままお子様に進路にかかるアドバイスをしてしまうと、お子様のグローバル社会におけるチャンスを見逃してしまう可能性があります。まずは保護者側が情報をアップデートすること。それだけで、お子様の未来の選択肢はぐんと広がります。既に東京や大阪などの大都市に居住している子育て家庭ではお子様を進学校では無く、海外留学や国内の郡部で「探究学習」に先進的に取り組んでいる高校へ進学させる傾向が見られ、毎年数百人から千人以上の中学3年生が全国の郡部の学校へ進学しています。本校においても、毎年「探究学習」を求めて道外からの入学生が来ています。その方が昔で言う「難関大学」へ入学したり、グローバル系企業や大企業に就職するには近道になることが多いからです。

私立大学では総合型選抜実施大学は9割にのぼります。国公立大学でも、国立大学の9割強、

公立大学の8割強が総合型選抜の募集枠を設けています。日本を代表する総合大学で研究力でも高く評価されている東北大学では、2050年までに入試を総合型選抜中心に転換するという方針を示しています。もはや総合型選抜は「ごく一部の大学の特殊な入試」ではなく、日本の大学入試全体の流れを象徴する方式になっているのです。

赤本を積み上げ、予備校に通い、センター試験の自己採点に一喜一憂する……。私たち親世代にとって、一般選抜を受けて、点数で合否が決まるのが当たり前でした。推薦で進学する人は「成績抜群の一部の優等生だけが使える特別ルート」というイメージを持っていた方が多いのではないでしょうか。しかし、今の大学入試はその前提が根本から変わっています。2025年度大学入試データでは、総合型選抜と学校推薦型選抜で入学した学生が、国公私立大学全体の約5割、私立大学に限れば約6割を占めます。一般選抜で進学するほうが少数派になっているのです。

標茶高校の充実した「探究学習」が進学・就職をサポート

本校では、右記の能力育成に向けて長年にわたり「探究学習」に取り組み、多くの第三者評価を受けてきました。その先輩達の活躍や努力のおかげもあり、中央6大学や関関同立、日東駒専などの有名大学を始め、国公立大学の今の主流となっている一般受験以外の受験可能枠を持つに至っております。道内全ての私立大学の推薦枠なども持っております。しかし、そういった大学を志す入学者が少ないため、毎年、多くの受験枠を使わずに流しているというのが現状です。

日中交流短期交換留学プログラム（JAL）

さらに、JAL様と連携した日中交流短期交換留学プログラムやライオンズクラブ様と連携したヨーロッパ留学プログラム、今後は横浜インターナショナルスクール様との交流プログラムも計画が始まる予定で、グローバルな視点を持ち、地域と連携した「探究学習」を通して、グローカルな人材育成を目標に教育活動を展開しています。まさに今、社会から求められている力を育むことができている高校であると自負しております。

就職についても、本校の教育活動に理解と興味を持っていただいている多くの上場企業様からの求人もあり、就職率100%を継続しております。そしていつか本校の卒業生が社会を経験した後に、即戦力としてふるさと標茶町で活躍してくれる人材に成長することを期待しています。

これからの時代、高度な学力を求められる職業（医師・弁護士・最先端科学技術研究職・国家公務員総合職など）は従来どおり各地域トップの進学校へ進学する選択一択ですが、将来の目標がそうでなければ「探究学習」が充実していて、保護者の元から短時間で通学可能な学校を高校選択の一つとしてメインに捉えていただければ幸いです。

最後に、本校の進路実績につきましては下記または本校HPをご覧になるか、本校教頭までお問い合わせください。また、インスタグラムによる本校の発信もぜひ、ご覧いただければ幸いです。北海道公立高等学校1位のフォロワーを持つチャンネルとなっておりますのでお楽しみいただけると思います。これからも我らが町の高校「標茶高校」をよろしくお願い申し上げます。

（標茶高等学校長　後藤　卓）

卒業生に聞いてみた！

令和7年度卒業　鈴木　徠斗さん

Qなぜ標茶高校に？

初めは家から一番近い学校だったからという理由ですが、卒業する頃にはそれ以上の良さに気づくことができました。広い敷地内を生かした湿原に関する授業や観光客へのタンチョウガイドなど、人と関わる機会が多く、標茶高校でしか学べない特別な経験ができるところが魅力です！

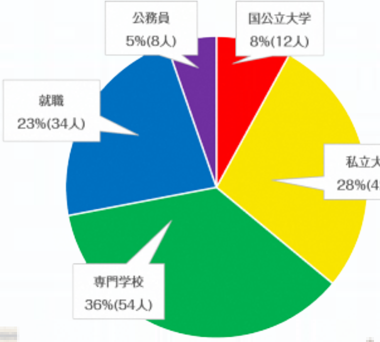
Q現在の生活について

現在、北海道教育大学釧路校に通っています！学校の先生になるためにピアノを弾く講義を受けたり、小学校に行って授業の様子を観察したりしています。また、よさこいサークルに所属していて、色々な祭りに参加して演舞を披露したりと、サークル活動と勉強を両立し頑張っています！

標茶町へメッセージ

僕は標茶町で育つことができてよかったと思っています！自然豊かでのどかな町が僕の癒しです！大学生として標茶町に貢献できるよう頑張ります！

卒業後の進路（過去3年間）



主な大学進学先

帯広畜産大学、釧路公立大学、北見工業大学、北海道教育大学、北海学園大学、酪農学園大学、日本医療大学、日本赤十字ほか医療看護大学　など

主な就職先

雪印メグミルク株式会社、標茶町役場、釧路市役所、北海道警察、鶴雅ホールディングス株式会社、イオン北海道株式会社、株式会社三ツ星レストラン、日本航空株式会社（JAL）、北海道旅客鉄道株式会社（JR）、北海道職員（学校事務）　など